

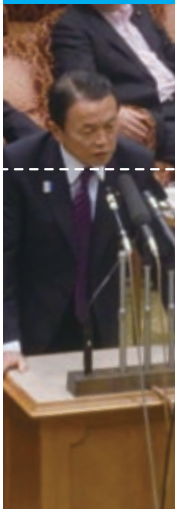


みんなの党通信

参議院 予算委員会で山田太郎議員が 安倍総理と麻生副総理に表現規制について迫る

先日、みんなの党の山田太郎参議院議員が参議院の予算委員会で安倍総理、麻生副総理に対して、質疑を行いました。質問のポイントおよび回答の要旨は以下です。

(2013年5月8日、参議院予算委員会にて質疑)



今回自民党が準備している法案はマンガ、アニメへの規制を拡大する附則がついているが。



山田



麻生副総理

最初にこの児童ポルノ規制をはじめたのは自民党の何かをしているときにやらせて頂いた。当時出版元とずいぶんやり合っ、昔と比べれば表現は良くなったと思っている。

この問題、紀伊國屋事件などで分かるように自主規制が問題だと思っているが。今、議論されている憲法21条の表現の自由と併せていかがか。



山田



安倍総理

(略) 御指摘の実在しない児童を描写したアニメ等に関しどのような規制が必要なのかという問題については、こうしたアニメ等が児童を性的対象とする風潮を助長するおそれがあるという一方で、今、山田委員がお話をされたような表現の自由との関係もございまして、私は、慎重な考慮が必要であるということについてはそのとおりなんだろうと、このように思います。慎重な考慮が必要である面も踏まえながら検討を言わば慎重に進めていくべきものであろうと、このように思っております。(原文)

小説はOKでマンガ、アニメはダメなのか。総理からお伺いしたい。



山田



麻生副総理

(安倍総理を制して) 小説の方が子どもが読まないんです。どうしてもマンガの方に目が行くというのが一番大きな背景だと言えます。

質疑の全文は
<http://taroyamada.jp/?p=2879> まで

この質疑に対して、山田議員は「マンガ好きで知られる麻生副総理にはがっかりした面がある。表現規制(＋ゾーニング?)についても最初に自分が取り組んだと仰っているし、最後の質問でもマンガを読む子どもが悪いというような、実在の児童を守るという児童ポルノ法とは全く関係の無い話をされている。ご本人は、あまりよくご存じ無いのではないか。逆に安倍総理からは、表現の自由の観点から『慎重な考慮が必要』と2度も引き出せたのは大きいと思う。引き続き、表現規制の問題については、反対の声を挙げていく」と語っています。



参議院議員 山田太郎

Profile

1967年生まれ。慶應義塾大学経済学部卒、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士後期課程満期退学。アンダーセンコンサルティング(現アクセンチュア)など多数のコンサルティング企業に在籍、2000年にはネクステックを創業し、2005年には当社をマザーズに上場。東京工業大学特任教授、早稲田大学客員准教授を歴任。現在、東京大学工学部非常勤講師。2012年末より参議院議員として、2010年当時から公約として掲げていた表現の自由を守る活動を推進中。みんなの党アジェンダ(政策)事務統括責任者、参議院農林水産委員会・決算委員会・憲法審査会所属。



@yamadataro43



taroyamada.jp/fb



taroyamada.jp

